

# ポスター発表の基本♡

---

徳島大学大学院医歯薬学研究部  
口腔保健福祉学分野  
吉岡昌美

# 本日のメニュー

---

- I. 中身を考える
- II. 見せ方を考える
- III. 実際の例を参考に・・・復習
- IV. まとめ

## I. 中身を考える

# 1. 発表したいことは何か、優先順位を決める

---

### ※全体のストーリーを確認する

(すでに演題申し込みが済んでいる段階であれば、タイトル、抄録はできているはずであるが…)

#### 例えば

地域住民を対象に公民館で行った避難所の設営訓練に関して…

- ①避難所の設営訓練の有効性を検証する
- ②避難所の設営をどうすればよいか、中身について検証する
- ③訓練への参加者や年代層を増やす方策について検討する

何を主題とするかによってストーリーは違ったものになります

## I. 中身を考える

# 2. 本文の構成を項目立てる

---

※ 『目的』、『対象および方法』、『結果』、『考察』、  
『結論』、『参考論文』、『謝辞』、etc

## I. 中身を考える

# 2. 本文の構成を項目立てる

## 1) 目的(緒言、はじめに、背景、など)

※まず、この研究を行うことになった経緯(必要性、研究の意義)が読み手にわかるように導入する

例) 地域で高齢者の足であったバス路線が縮小している。その地域では独居や高齢者のみ世帯がほとんどで、自力で街に出て行けず、買い物や通院にも支障をきたしている現状がある。……

- >> コミュニティでの移送支援を考えるにあたり、実際に地域住民にどのようなニーズがあるか現状分析する必要がある
- >> 現状が把握できれば、費用対効果の高い移送サービスを検討する際に有用な資料となる

※研究目的は明確にすること。ただ単に「知りたかったので調べた」、「調査したのでまとめた」のではダメ!

# I. 中身を考える

## 2. 本文の構成を項目立てる

### 2) 対象および方法

※対象は端的に示す。地域のロケーション、特徴などあるとよい  
人が対象の場合、対象の人数、年齢(年代)、性別(分かれば)は必須、  
属性がわかると、研究の目的や結果が理解しやすい

※方法は時系列で、フローチャートにするとわかりやすい。

※アンケート用紙や視覚素材などは現物があるとわかりやすいが、  
情報量が多い場合は内容を抜粋して示すとよい。

ご自由にお持ち  
ください。

ご自由にご覧ください。

## I. 中身を考える

# 2. 本文の構成を項目立てる

## 2) 対象および方法

---

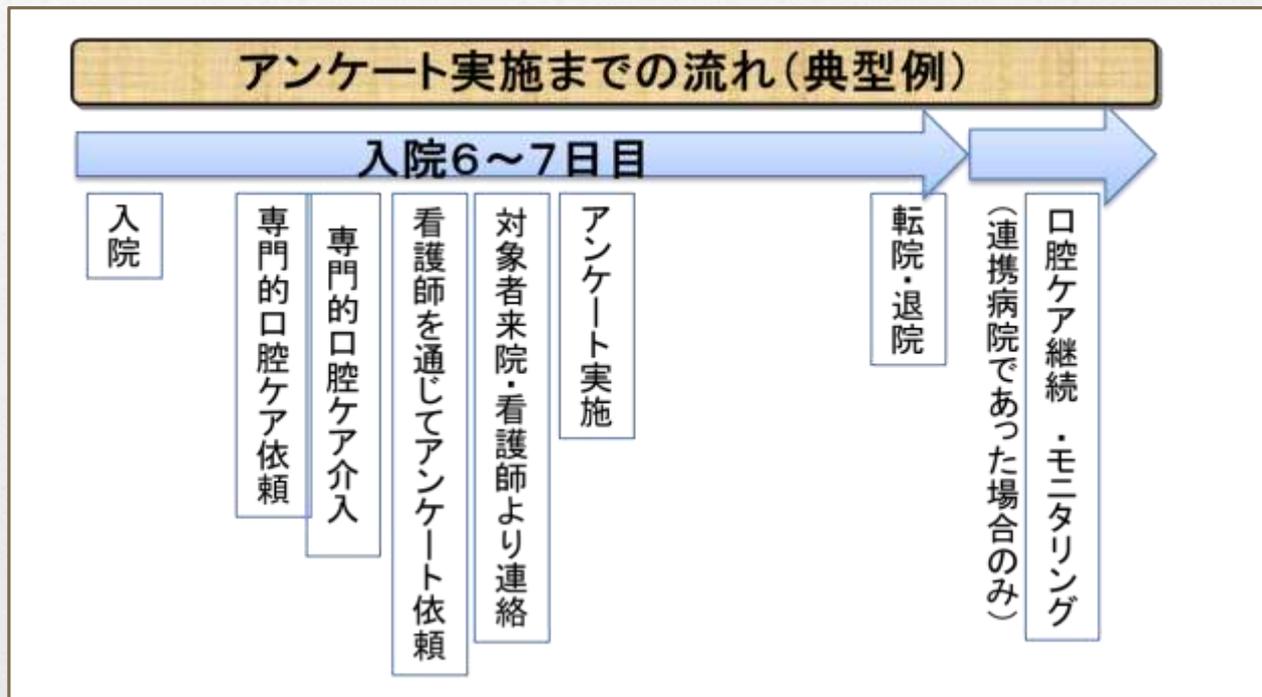
※対象は端的に示す。地域のロケーション、特徴などあるとよい  
人が対象の場合、対象の人数、年齢(年代)、性別(分かれば)は必須、  
属性がわかると、研究の目的や結果が理解しやすい

# I. 中身を考える

## 2. 本文の構成を項目立てる

### 2) 対象および方法

※方法は時系列で、フローチャートにするとわかりやすい。



# I. 中身を考える

## 2. 本文の構成を項目立てる

### 2) 対象および方法

※アンケート用紙や視覚素材などは現物があるとわかりやすいが、情報量が多い場合は内容を抜粋して示すとよい。

アンケート調査の結果を解釈する時、  
気になること(つまり、明記すべきこと)

☆自記式か、聞き取りか、郵送か

☆選択肢を提示したのか、自由回答か

・選択肢はどんな？

・単項選択方式、多項選択方式  
(複数回答あり?)

- >アンケート回答者 a. 本人 b. 親族(続柄) c. その他
- >調査方法 a. 面接調査(聞き取り) b. 質問紙調査
- >かかりつけ歯科医院の有無
- >「口腔ケア」という言葉の認知度
- >一般的な「専門的口腔ケア」の効用(知識として)……Q.8
  - a. むし歯・歯周病の予防
  - b. 咀嚼・嚥下機能の維持・回復
  - c. 呼吸器感染(誤嚥性肺炎)の予防
  - d. 療養意欲・生活の質の向上
  - e. 床ずれの予防・改善
  - f. 栄養状態の改善
  - g. 口臭の防止
  - h. 会話発音の維持・回復
  - i. お口の爽快感
  - j. その他
- >「専門的口腔ケア」の希望
- > 今回、「専門的口腔ケア」に期待されている効果 (Q. 8と同じ選択肢)
- >「専門的口腔ケア」に対する不安の有無とその理由
- >転院、退院後にも専門的口腔ケアを希望するか
- >希望する場合、期待する効果は？(Q. 8と同じ選択肢)
- >入院中、転院、退院後の口腔ケアに対する要望(自由回答)
- >看護師から説明を受けるまで「専門的口腔ケア」を希望しなかった理由
  - a. 通常の「口腔ケア」で十分だと思うから
  - b. 「専門的口腔ケア」の効果がわからないから
  - c. 全身状態が落ち着かない間はあまり触って欲しくないから
  - d. 歯がない(少ない)から
  - e. 自分で磨けるから
  - f. 食べてないから
  - g. 身体に負担、病状に悪影響が出ないか不安
  - h. 精神的に負担になるから
  - i. 経済的に負担がかかるから
  - j. その他

## I. 中身を考える

# 2. 本文の構成を項目立てる

## 3) 結果(図表含む)

---

※結果はあくまでも研究成果から言えることに限る。

余計な修飾はしない

※図表には必ずタイトルを付け、その図表を見れば何を示しているのかがある程度理解できるように、情報を入れ込む。

脚注などを利用

※学術論文ではタイトルは図の場合は下に、表の場合は上につけるのが通例であるが、ポスターでは読みやすさを優先し、タイトルを上につけることもある。

但し全体の統一性はあった方がよい

## I. 中身を考える

# 2. 本文の構成を項目立てる

## 3) 結果(図表含む)

---

※本文で図表を引用するならば番号を付けると便利。

写真などは「図」に含めないこともある。

※図表に番号を振る場合は図1、図2・・・表1、表2・・・と出てくる順番に。もし、関連する図が2個で1つの図であるような場合には、図1-1、図1-2と枝番を付けるとわかりやすい。

※図表から言えることをコメントとして示すとわかりやすい

※言いたいことを効果的に示すことができるのは図か表かどちらかを考えて図表を選択する。 **グラフの種類を選ぶのも重要!**

※図表にするほどでない結果は、テキスト(文章)で示す。

# I. 中身を考える

## 2. 本文の構成を項目立てる

### 4) 考察(結果および考察も可)

※個々の結果に関する考察であれば結果とあわせて書いても良いが、複数の結果(図表)にまたがる内容を考察する場合、先行研究などと併せて考察する場合は、結果とは別に考察のセクションを作る、もしくはチャートで示す方がわかりやすい。



I. 中身を考える

## 2. 本文の構成を項目立てる

### 5) 結論(なくても可)

---

※その研究の主旨がわかるように簡潔に書く。  
箇条書きにするとすっきりする

## I. 中身を考える

# 2. 本文の構成を項目立てる

## 6) 参考文献(なくても可)

※読み手がその文献にたどり着くことができるように、参考文献を引くときの最小限の手掛かり(学術雑誌名、年・巻・号・ページ、あるいはwebサイトのアドレス)を記載する。論文タイトルと筆頭著者名があるとより親切。

### 参考文献

- 1) 十川他: 徳島大学病院における妊婦の口腔保健向上に関する研究, 日本歯科衛生学会誌 4:50-59, 2009
- 2) 平成17年歯科疾患実態調査, 口腔保健協会, 東京, 2007, 99頁
- 3) 横山他: 徳島県における妊婦歯科健診受診者の口腔保健の現状および低体重児周産との関連性, 口腔衛生学会誌 59:190-197, 2009
- 4) 厚生労働省: 平成17年人口動態統計(確定数)の概況 人口動態統計年報 主要統計表(最新データ, 年次推移): 第7表 性別に見た出生児の体重別出生数・構成割合

## II. 見せ方を考える

---

1. 全体のレイアウト
2. 字の大きさ、フォント、色、修飾文字の使い方
3. ブロックごとのまとまり感とすっきり感
4. チャートや写真を活用すると効果的

## II. 見せ方を考える

### 1. 全体のレイアウト

※目で追いやすように  
左から右 上から下

◇演題氏名所属を別として  
A3版の用紙8枚の場合(目安)

目的(緒言):1枚

対象および方法:1-2枚

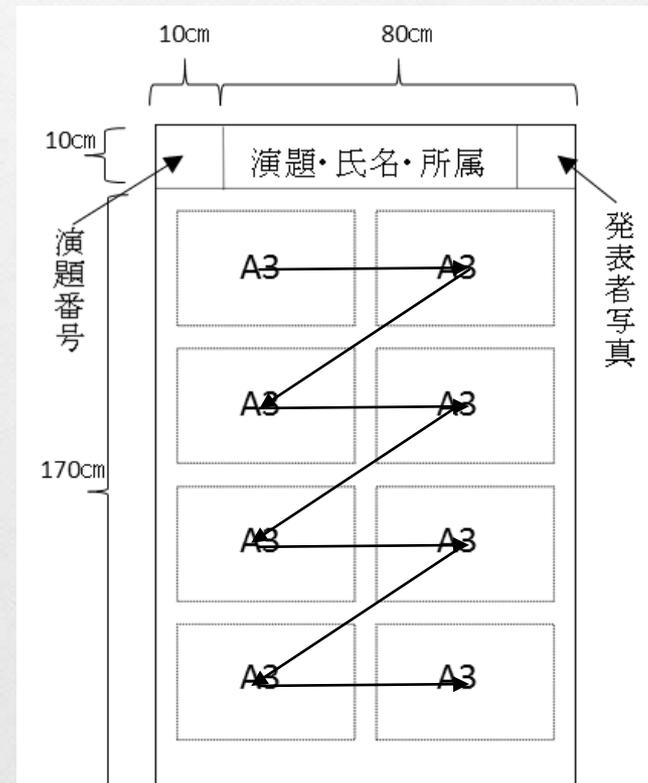
結果:4-5枚

考察:1枚 } 結果および考察

結論:1枚

参考文献:0.5枚

謝辞:0.5枚



## II. 見せ方を考える

### 2. 字の大きさ、フォント、色、などの使い方

---

※2m離れたところからも読めるような大きさ(20-24ポイント以上目安)

※見出しと本文のフォント(字体、強調文字、斜体、アンダーライン、影)を切り替えるとメリハリが付きやすい

但し、凝りすぎると、逆に読みづらくなるのでほどほどに...

※タイトル、発表者名、所属、本文のベースは黒を使用  
目立たせたいところ、対比したい所などは色を変える

※グラフの色などは区別がわかりやすいように組み合わせる  
同系色だと統一感があり見栄えは良いが、分かりにくいこともある

## II. 見せ方を考える

### 3. ブロックごとのまとまり感とすっきり感

---

※A3版などを使用する場合、色の濃い紙で台紙に貼って掲示すると、コントラストが付き、読みやすい

※模造紙や特大ポスターなどを使用する場合、ブロックごとの見出しで区切りをつける、もしくは、ブロックごとに囲い込むなどすると、全体の流れも理解しやすい

## II. 見せ方を考える

### 4. チャートや写真を入れると効果的

---

※研究内容の理解を促すために、チャートや写真を活用すると  
読み手にわかりやすい

最後になりましたが、演題タイトルは非常に重要です！  
できれば、研究対象、方法論のキーワードを入れること。  
長くなる場合は副題で示しましょう。

### III. 実際の例を参考に・・・復習

The poster is a complex layout with multiple sections. At the top, it has a title and authors. Below that, there are several columns of text, including an abstract, introduction, and conclusion. Interspersed with the text are several charts and graphs, including pie charts and bar charts, which represent data from the study. The layout is clean and professional, with clear headings and organized content.

中身はさておいて・・・見せ方の確認を

1. 全体のレイアウト: 目で追いやすい? !
2. 字の大きさ、フォント、色などの使い方
3. ブロックごとのまとまり感とすっきり感
  - ♡メインの結果はなかほど(見やすい位置)に!
  - ♡余白や縦横位置、端揃えもポイント
4. チャートや写真を入れると効果的
  - ◆仕上げは、自分らしさで味付けしましょう◆

## IV. まとめ

---

※『ポスター発表の基本』は、自分の伝えたいことをいかに読み手にわかりやすく見てもらえるかを考えて(想像して)、ポスターを作成することだと思います。

『中身』はもちろんですが、『外見』にも気を配ることが大事です。第三者的な視点で、ブラッシュアップを重ねて仕上げる努力をお願いします。

## 最後に・・・

---

※『ポスター発表の基本♡』をお話してきましたが、実は一番大事なのは研究デザインがしっかりしていること。  
すなわち、ストーリーが理論的、客観的であること

※『ポスター発表』に向けて準備することは、普段の業務の中で、ぼやっと抱いているイメージ(問題意識)などを整理し、確認した上で、相互理解、問題解決に繋げるための作業にもなると思います

## 最後のお願い・・・

---

日頃、皆様が取り組んでおられる地域の課題をこの機会に是非まとめて頂き、8月27日(日)に大塚講堂で開催されます第一回徳島県地域包括ケアシステム学会・学術集会にてご発表頂きますようお願い申し上げます。



*Fin*

2017/5/27

はじめての学会発表HowTo(1)

# はじめての学会発表

那賀町地域包括支援センター  
湯浅 雅志

・作家になりたいのなら、絶対にしなければならないことが二つある。たくさん読み、たくさん書くことだ。(192頁)



・研究発表が上手になりたいなら、絶対にしなければならないことがふたつある。たくさん研究発表を聴き、たくさん発表することだ。

・公式：二次稿＝一次稿マイナス10%

# 日頃の実践事例からテーマを考える

## • 背景

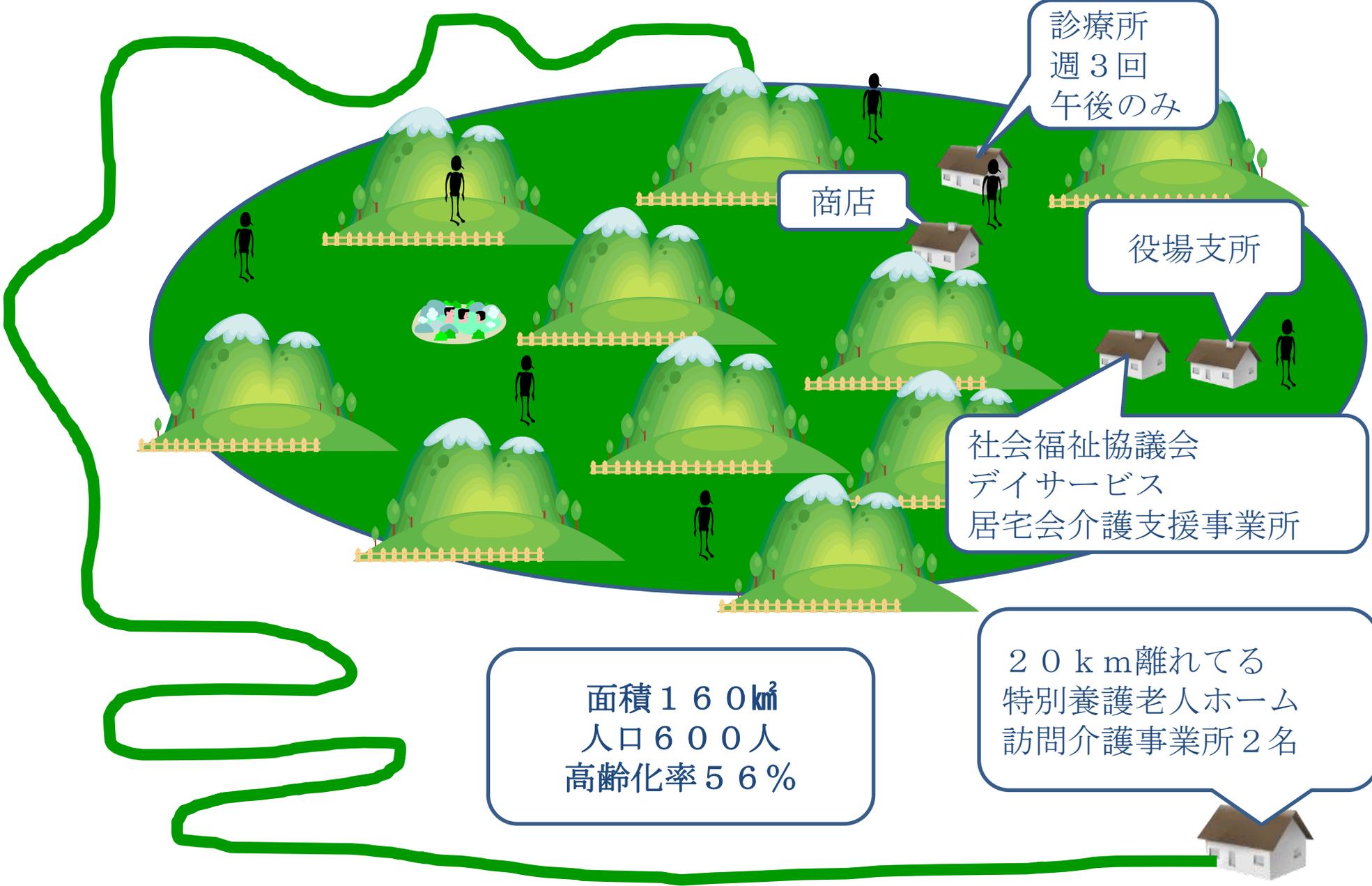
– 介入できないと放置されている事例があった。

何を言ってもダメ！  
息子さんがいる限り  
介入できない！

薬が切れてるのに受診  
や往診の連絡をしても  
息子に拒否される







診療所  
週3回  
午後のみ

商店

役場支所

社会福祉協議会  
デイサービス  
居宅介護支援事業所

面積160km<sup>2</sup>  
人口600人  
高齢化率56%

20km離れてる  
特別養護老人ホーム  
訪問介護事業所2名



# 事例概要 A氏 (母)

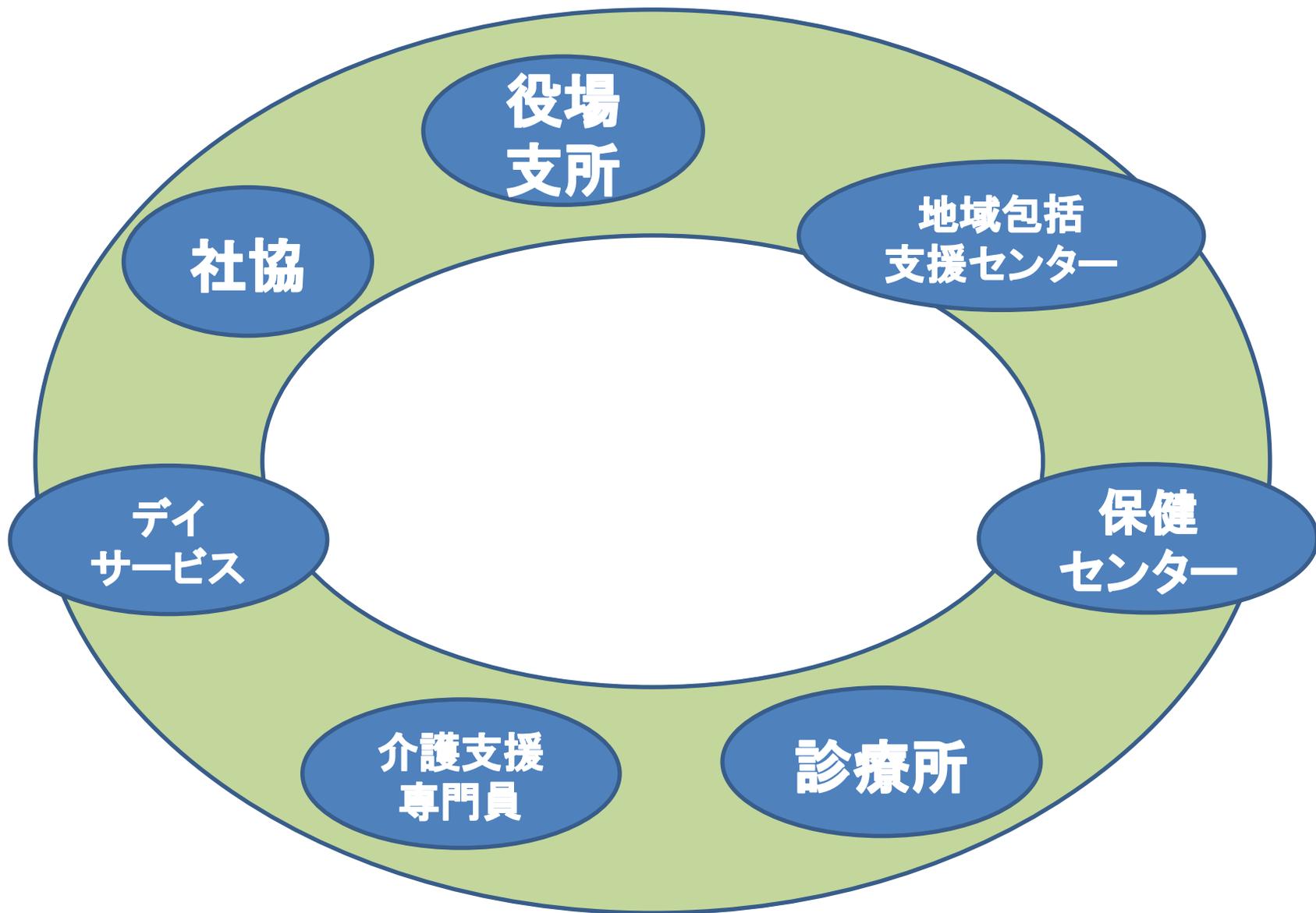


# 事例概要 B氏（息子）

男性 60歳前半  
人嫌い・病院嫌い  
行政嫌い  
仕事不安定  
独身



# D支所ケア会議



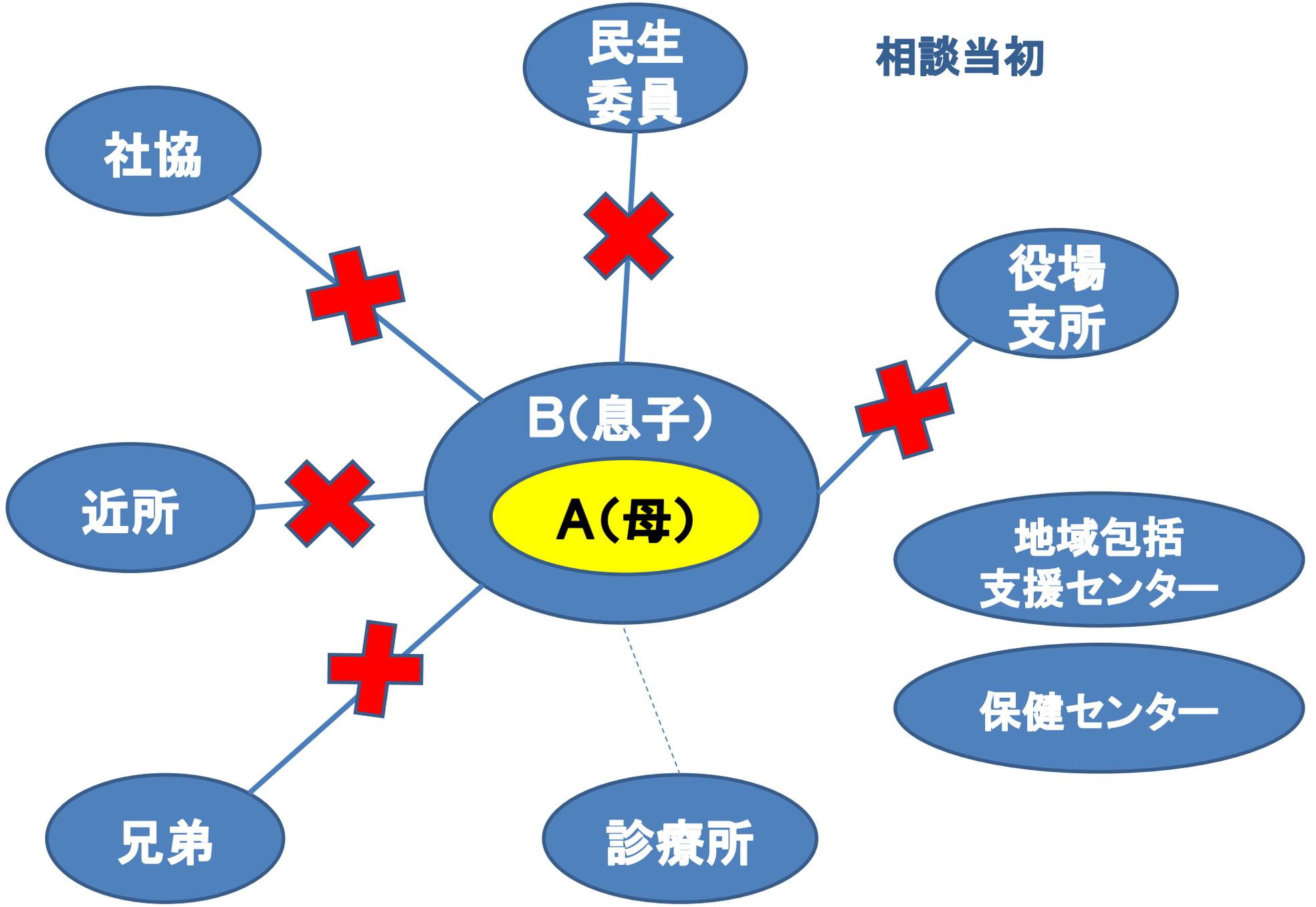
薬が切れてるのに受診や  
往診の連絡をしても息子  
に拒否される



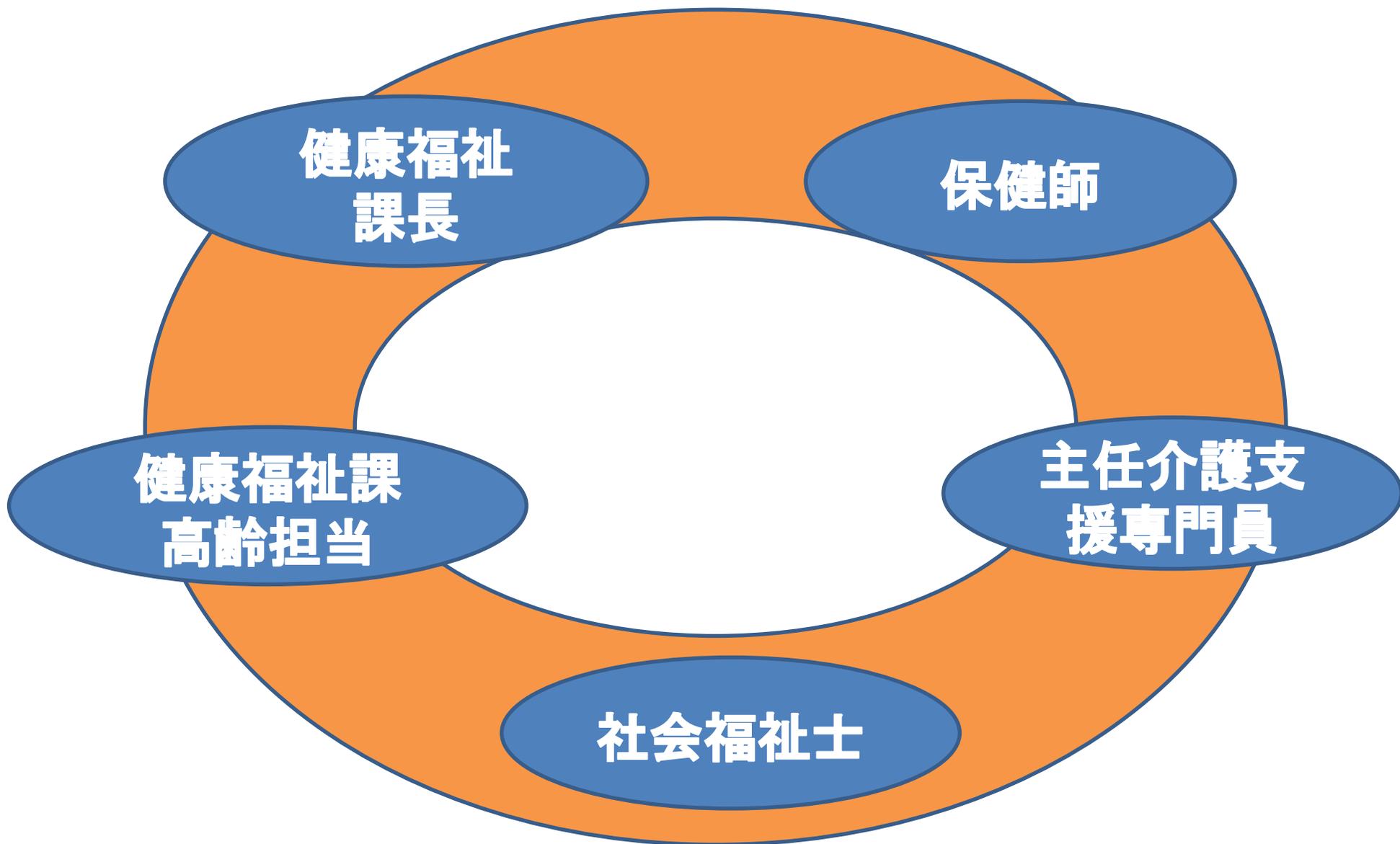
何を言ってもダメ！  
息子さんがいる限り  
介入できない！



相談当初



# コア会議【健康福祉課・地域包括支援センター】



# コア会議の結果

対象	優先順位	課題	目標	何をどのように	支援機関・担当	実施日時・期間/評価日
高齢者	1	医療の必要性について	定期的に血圧の数値を把握する	訪問し血圧測定する	保健C	適宜
	3		医療的な情報提供を行う	医師より医療の必要性について話していただく	診療所	約束ができたなら
	2	閉じこもっている	真意を知る	デイや受診しないことについてどう思っているのか聞き出す	保健C・包括	適宜
擁護者	1	コミュニケーションがとれにくい	何でも話せる関係をつくる	信頼関係を構築する	包括	適宜
	2	医療の必要性について正しい理解があるか	医療的な情報を確認していただけるような機会を設定する	信頼関係を構築する	包括	関係性が築けたら
	3		医療的な情報提供を行う	医師より医療の必要性について話していただく	診療所	約束ができたなら

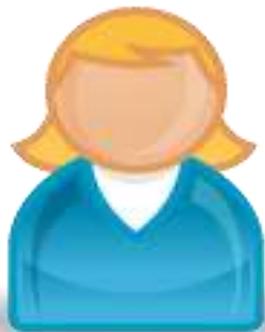
# コア会議の結果

対象	優先順位	課題	目標	何をどのように	支援機関・担当	実施日時・期間/評価日
高齢者	1	医療の必要性について	定期的に血圧の数値を把握する	訪問し血圧測定する	保健C	適宜
	3		医療的な情報提供を行う	医師より医療の必要性について話していただく	診療所	約束ができたなら
	2	閉じこもっている	真意を知る	デイや受診しないことについてどう思っているのか聞き出す	保健C・包括	適宜
擁護者	1	コミュニケーションがとれにくい	何でも話せる関係をつくる	信頼関係を構築する	包括	適宜
	2	医療の必要性について正しい理解があるか	医療的な情報を確認していただけるような機会を設定する	信頼関係を構築する	包括	関係性が築けたら
	3		医療的な情報提供を行う	医師より医療の必要性について話していただく	診療所	約束ができたなら

介入困難な事例にどうしたら介入できるか。

## 適切な対応方法を伝える役割

- ・治療や服薬の必要性
- ・制度やサービスの説明
- ・介護の方法



話題づくり(問題提起)

## 信頼関係を構築する役割

- ・純粹に傾聴する
- ・受容的に関わる
- ・共感的理解を生み出す



利用者中心主義  
アプローチ

# 信頼関係を構築するために

- 助言や指示・指導はしない
- 真剣に息子の話を聴く
- 純粹に傾聴しようとしているのか自己吟味する
- ありのままの息子の考えや行動を受け入れる
- 考え方や行動について、どのような過程でそのようになったのかを理解しようとする
- 評価も解釈もなく、ありのままの姿と経験した出来事、  
思いを共に感じる

# 見えてきた息子の思い

- お金がない・生活が大変
- 施しは受けたくない
- 役場や病院は文句ばかり言う
- 病院は金儲けのために薬をたくさん出す
- 薬は体によくない・もったいない
- 母を大事にしたい
- 母と一緒にいたい
- 母の意思を尊重したい→一緒にいたいはず

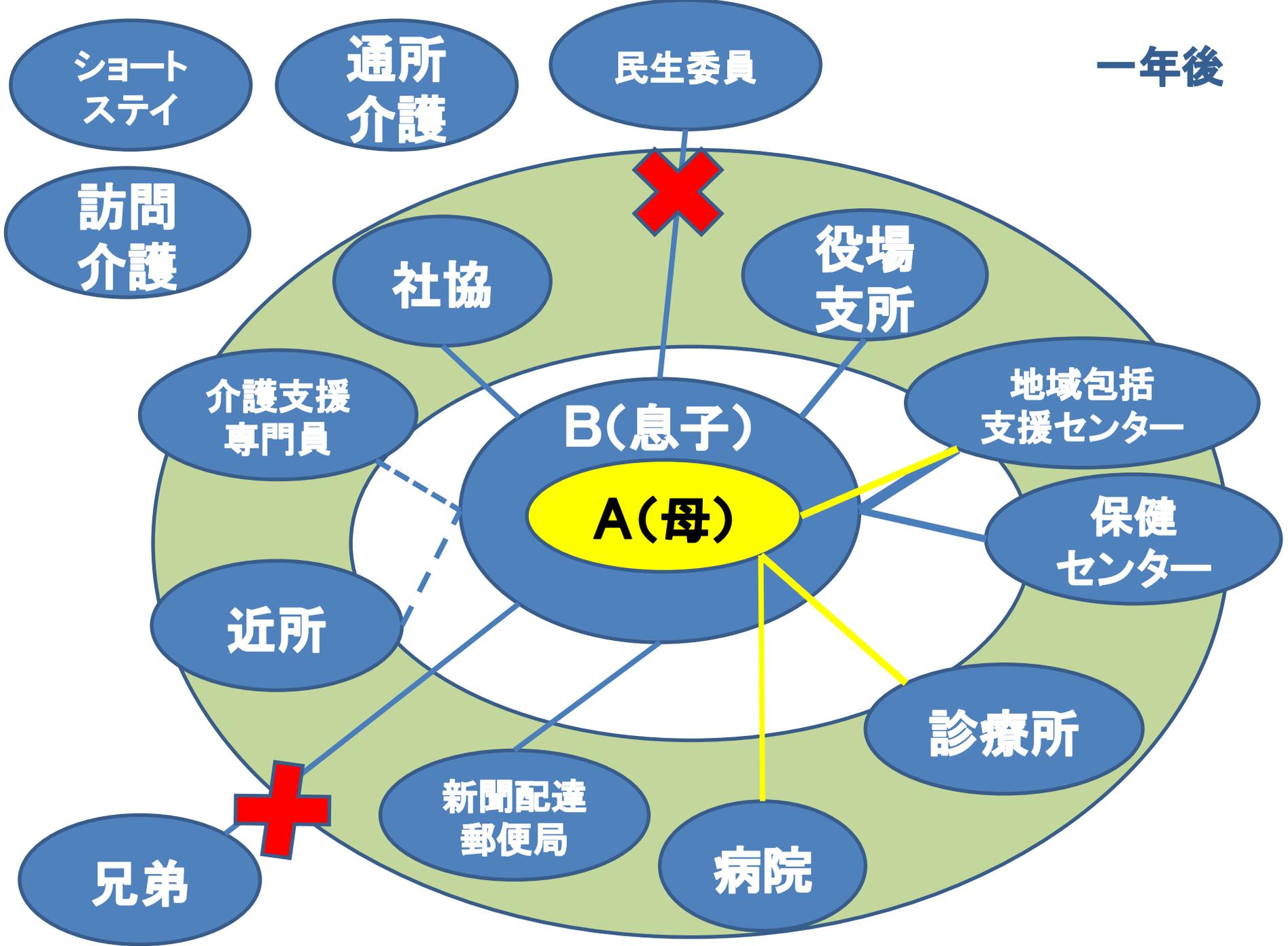
# 結果

- 利用者中心アプローチを展開することで息子と信頼関係を構築することができた。
  - 息子が感じていること思っていること気になることを話してくれるようになった
  - 報告者を通して専門職(医師等)の助言を受け入れてくれるようになった

# 結果

- 適切な対応方法を伝えることで息子の引っかかっていることが見えてきた。
- 息子とそのことについて考え、他の専門職の意見を聴く気になってくれた。
- 息子の対応方法と適切と考えられる対応方法の違いについて話し合う機会ができた。

一年後



# 役割分担することで事例が前に進む

適切な対応方法を伝える役割

信頼関係を構築する役割

・やるべきことが提示される

・何が引っかかっているのか共有できる



**個別ケースから地域課題を抽出する**

# 個別の事例から地域課題の抽出

事例の個別課題	解決に向けた個別支援実施(計画)	残されている個別課題	地域課題の抽出
息子の介護や医療情報の不足と偏見	信頼関係を構築し情報提供する	伝わるまでに時間がかかる	助けをも求める方法がわからない介護者がいる
他者の介入を拒否する息子	信頼関係を構築する(傾聴・受容共感的理解)	介入できる人が限られる	孤独な介護者がいる
介入できないと決めつける支援者	他機関が介入できることを示す	支援者のスキルアップしたい気持ちが少ない	対人援助技術を得る機会が少ない支援者がいる
適切な判断ができずに息子にいわれるままに従う母	成年後見制度の利用	受任できる専門職が少ない	必要な方に成年後見人等が対応できない

# 地域の支援計画表(案)

ニーズ	目標	実施内容	担当・役割	場所	実施時期
対人援助技術を身につけたい	介護支援専門員の対人援助技術がスキルアップする	事例検討会ができるスキルを身につける	講師:〇〇の会 対象者:那賀町及隣郡の介護支援専門員 事務局:地域包括支援センター	〇公民館	H25年6月～ 2ヶ月1回
介護方法について知りたい	認知症について正しい理解を持つ	認知症サポーターを350名増やす	講師:地域包括支援センター職員 対象者:地域住民 事務局:地域包括支援センター	各公民館等	H25年4月～
必要な方に成年後見人等が対応できる	成年後見制度の専門職の受任者が確保されている	那賀町成年後見制度利用支援事業実施要綱の見直し	①地域包括支援センター:情報収集・整理し素案作成  ②健康福祉検討会:要綱の案作成	相生保健センター	①H24年12月までに素案作成  ②H25年2月～

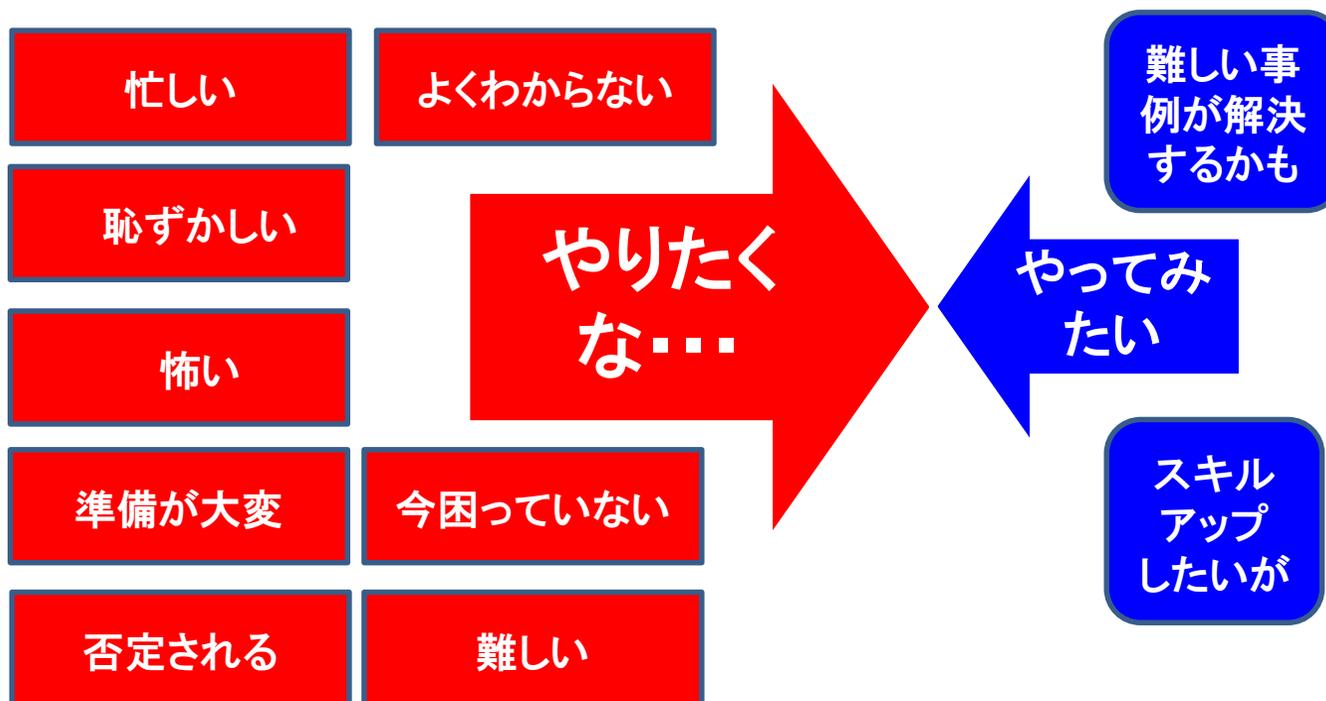
「地域のネットワークづくりの方法-地域包括ケアの具体的な展開」白澤政和

## 地域の支援計画表

地域課題の抽出	ニーズ	目標	実施内容	担当・役割	場所	実施時期
助けをも求める方法がわからない介護者がある	対人援助技術を身につけたい	介護支援専門員の対人援助技術がスキルアップする	事例検討会ができるスキルを身につける	講師：〇〇の会 対象者：那賀町及隣郡の介護支援専門員 事務局：地域包括支援センター	○公民館	H25年6月～ 2ヶ月1回
孤独な介護者がある	必要な方に成年後見人等が対応できる	成年後見制度の専門職の受任者が確保されている	那賀町成年後見制度利用支援事業実施要綱の見直し	①地域包括支援センター：情報収集・整理し素案作成 ②健康福祉検討会：要綱の案作成	相生保健センター	①H24年12月までに素案作成 ②H25年2月～
対人援助技術を得る機会が少ない支援者がある	介護方法について知りたい	認知症について正しい理解を持つ	認知症サポーターを350名増やす	講師：地域包括支援センター職員 対象者：地域住民 事務局：地域包括支援センター	各公民館等	H25年4月～
必要な方に成年後見人等が対応できない						

「地域のネットワークづくりの方法-地域包括ケアの具体的な展開」白澤政和

# 興味はあるが参加はちょっと・・・



# 結論

- やり方を学んだことよりも、同じ目標に向かって勉強することで連帯感ができ、このグループの中でなら安心して事例検討を行っていけると感じたことが、今後事例検討会に積極的に参加したいと考えるようになった要因と考える。



2017/5/27

## これまで

- 2013年度 事例検討会の事前学習会  
(偶数月第2水曜日18:30～21:00,美波町)
- 2014年度 事例検討会  
(偶数月第2水曜日18:30～21:00,美波町)
- 課題:参加者が特定化されてきた、夜集まらないケアマネが多い等

**2015年度**

**各地域包括支援センター主催  
で事例検討会を主催する。**

## 事業計画

## 徳島県南部地域ケアマネ連絡会 2015年度事業計画

### ①事例検討ファーストステップセミナー

日程:4月14日(火)13:30-15:50

場所:美波町日和佐公民館(3階大集会室)

②各地域包括支援センターが持ち回りで年間2回ずつ事例検討会主催(平日日中開催予定)日程:5月/那賀町、6月/美波町、7月/牟岐町、9月/海陽町、10月/美波町、11月/牟岐町、2016年/ 1月/那賀町、2月/海陽町場所:各担当町

### ③より効果的な事例検討会を行うための学習及び事業計画会

日程:8月18日(火)、12月15日(火)、3月15日(火):各日とも18:30~21:00

場所:各日とも美波町日和佐公民館

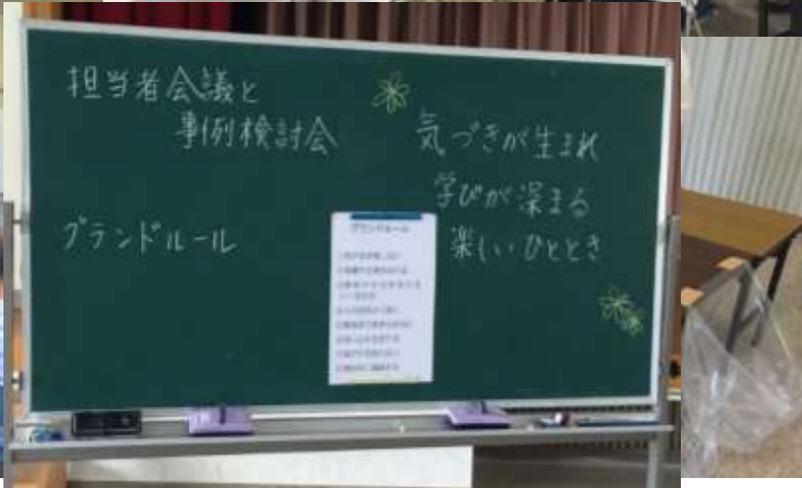
※事務連絡は那賀町地域包括支援センターから各地域包括支援センター(美波町、牟岐町、海陽町)へメールする。→各町の居宅介護支援事業所へは各地域包括支援センターが周知する。

①については那賀町地域包括支援センターが段取りする。

②の日程、場所、事例提供者、司会者等は各担当地域包括支援センターが段取りする。

③各地域包括支援センターの主任介護支援専門員と相談しながら計画する。





## 事業計画(案)

## 徳島県南部地域ケアマネ連絡会 2016年度事業計画

### ①事例検討入門セミナー

日程:5月16日(月)14:00-16:00

場所:美波町日和佐公民館(3階大集会室)

### ②各地域包括支援センターが持ち回りで年間2回ずつ事例検討会又は研修会主催(平日日中開催予定)

日程:6月/那賀町、7月/美波町、9月/牟岐町、10月/海陽町、11月/美波町、12月/那賀町、  
2016年/ 1月/牟岐町、2月/海陽町

場所:各担当町

### ③主任介護支援専門員連絡会

年3回程度実施(4/14実施、8/15予定)

※事務連絡は那賀町地域包括支援センターから各地域包括支援センター(美波町、牟岐町、海陽町)へメールする。→各町の居宅介護支援事業所へは各地域包括支援センターが周知する。

①については那賀町地域包括支援センターが段取りする。

②の日程、場所、事例提供者、司会者等は各担当地域包括支援センターが段取りする。

③各地域包括支援センターの主任介護支援専門員と相談しながら計画する。

**どんな発表ができるか？**

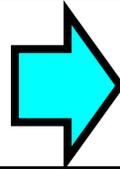


# ケアマネジャーという仕事の難しさ

基礎科学との関係

専門職像

メジャーな専門職

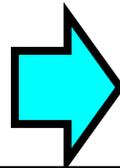


技術的熟練者  
(technical expert)

基礎科学と応用技術の  
知的体系が整備されて  
いる専門職。

科学的な理論・技術を厳密に適用  
し、問題解決を行う。

マイナーな専門職



反省的専門家  
(reflective practitioner)

基礎科学や応用技術を  
厳密化することが困難  
な領域の専門職。

実践している真っ最中に、自らの  
行っていることについて振り返って  
考えること(行為の中の省察)から、  
自分自身の行為から学び、有効な  
行為を選び取ることができる。

# 最後に・・・ケアマネジャー自身の課題

求めるだけでなく、自ら専門職として努力しよう！

研究大会等に  
参加・発表する

自己研  
鑽

専門書を読む  
自ら学ぶ

事例から  
学ぶ

自信と誇  
りを持つ

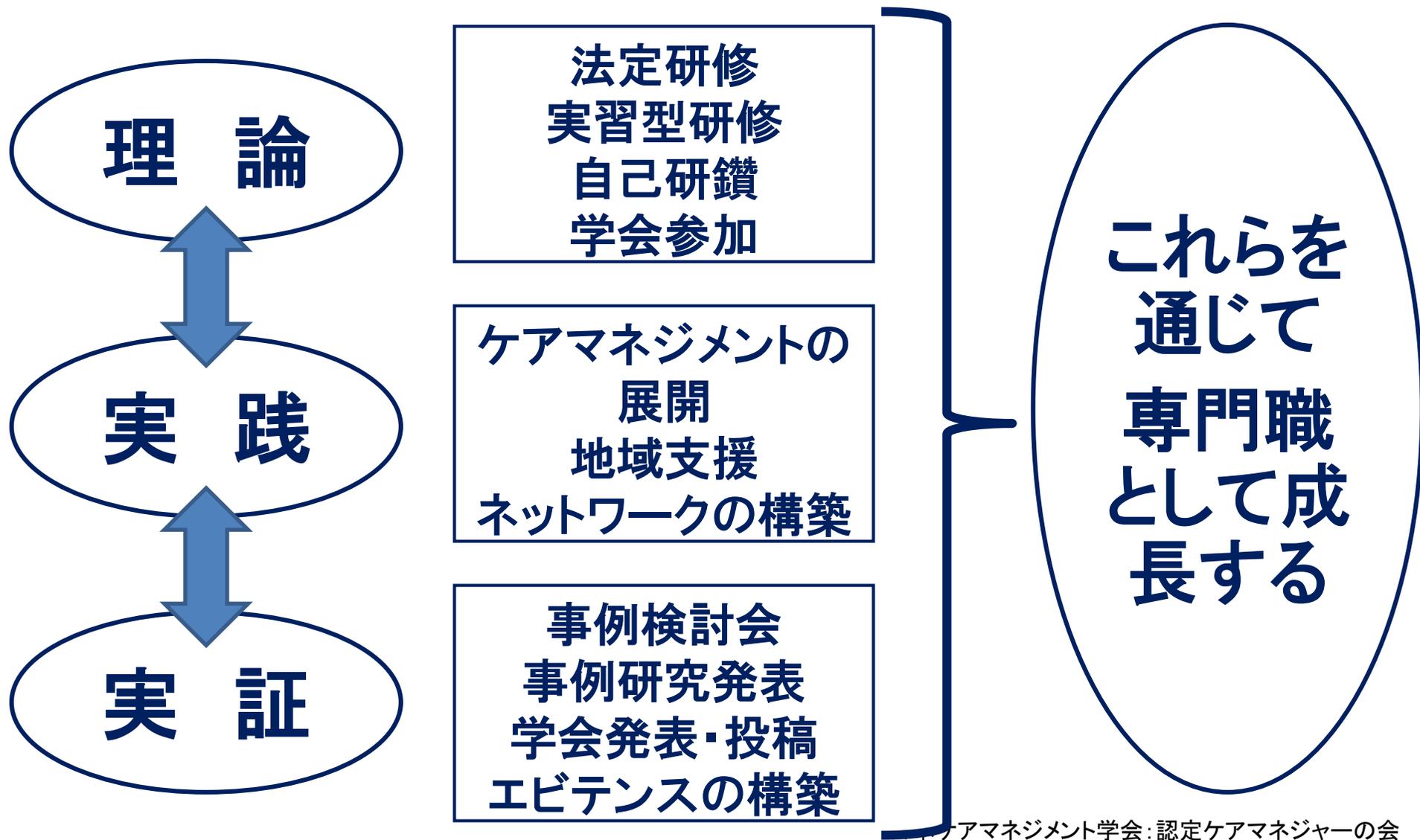
事業所  
で学ぶ

職能団体・学会への  
参加認定ケアマネ  
ジャーへの挑戦

仲間と学  
ぶ

地域での事例検討  
会の開催・参加

# (1) ケアマネジャーの人材育成に不可欠な3つの要素 自ら学び実践を通して実証を重ねる



# ケアマネジャーによるケアマネジャーの資質向上を目指す

ケアプラン  
チェック

行政  
(保険者による)  
給付の適正化  
介護保険サービスの  
利用の適正化を  
確認する作業

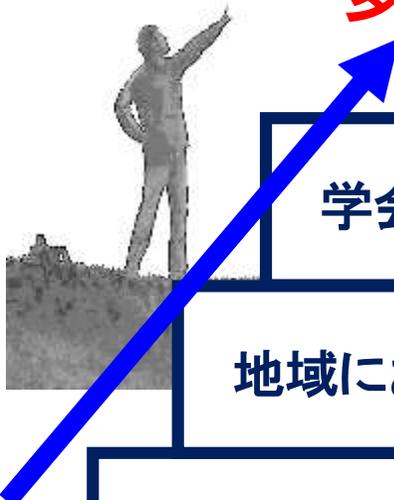
質の  
評価  
ではな  
い

ケアマネジメント  
の質の評価

事例検討  
事例研究  
エビデンス  
利用者評価  
自己評価

## (2) ケアマネジャーの人材育成に不可欠な4つのステップ

多様な学習の機会を積み重ねていくことが大切



学会・職能団体等における検証(事例の提供・発表等)

バイザー  
となる

地域における人材育成(地域包括の研修、地域団体との連携等)

事業所における人材育成(事業所内事例検討会等)

バイジー  
体験を  
する

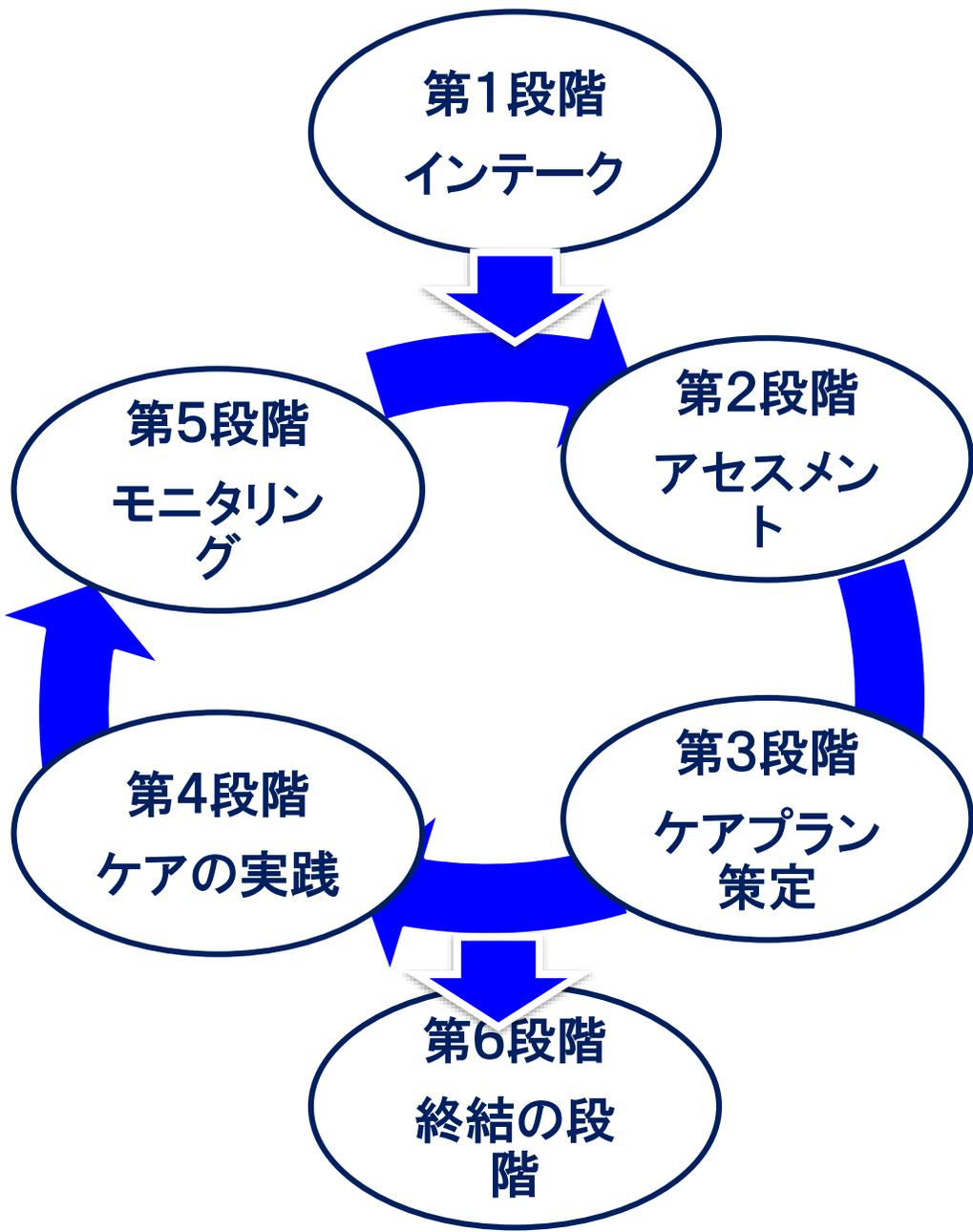
自己研鑽(専門書を読む、法定研修への参加等)

基礎的  
土壌

バイジーとし  
ての経験

バイザーを目指す

### (3) ケアマネジメントに関する理解と実践力を高める視点



各段階の業務を行うに当って、「なぜ、そのように決定するのか」という根拠を明確にする。「なぜそのように決定するのかという根拠」を常に意識する

根拠のないサービス  
提供はない

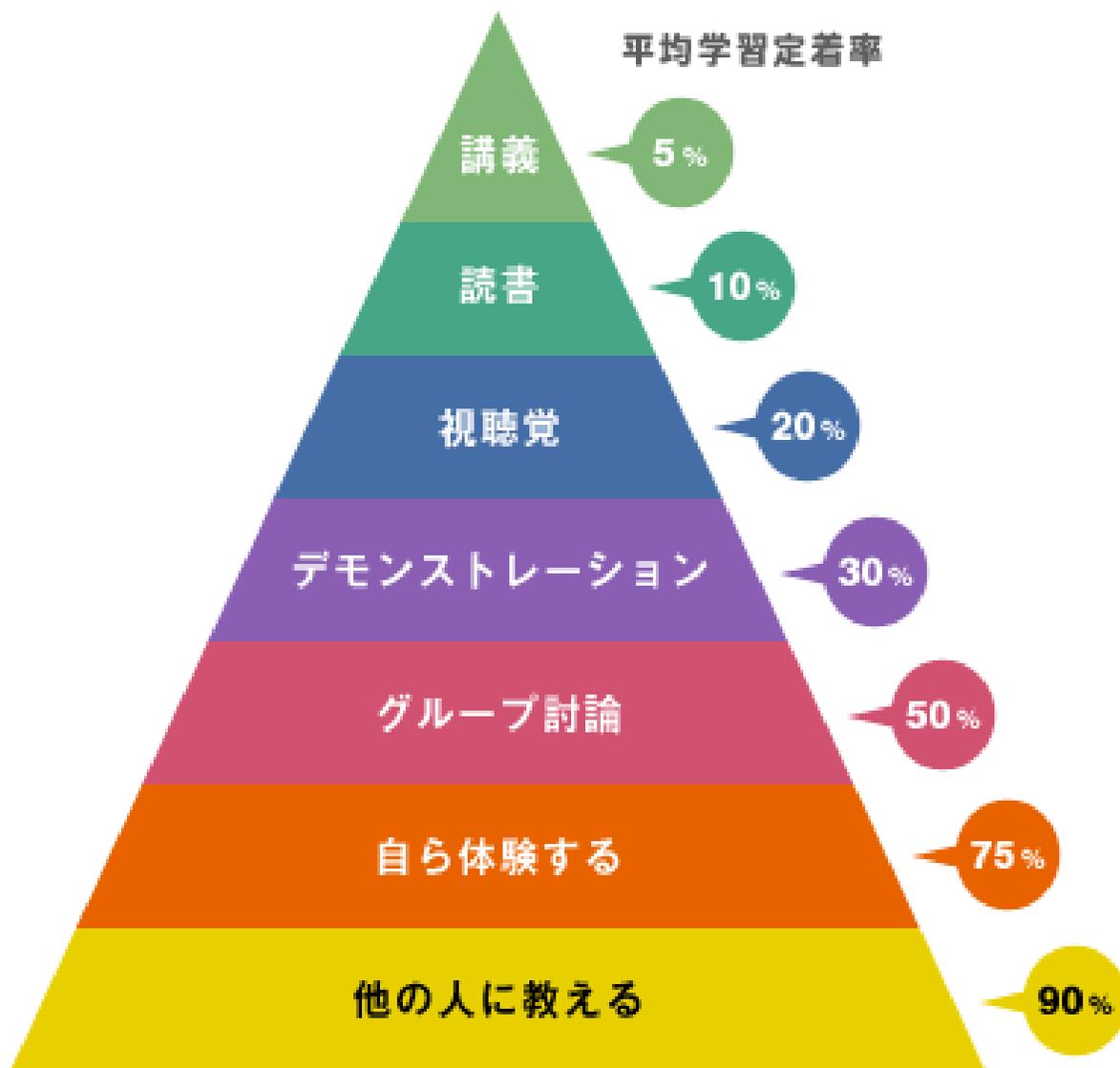
## (4)事例検討会の活用

### 事例検討 会への参 加

机上におけるケアマネジメントの予備的な学習機会であるとともに、今後自分が遭遇するかもしれないという意味において、より実践的な学びの場

疑似体験を図る中で、「もし、自分だったらどうするか」自ら問題として考えてみる

事例検討会の事例をまとめて文章化することで、ケアマネジャーへの具体的な支援の可視化が可能となり、次世代のケアマネジャーがケアマネジメントの現状を理解する手段とすて大きな役割が期待できる



ラーニングピラミッド

※出典: The Learning Pyramid. アメリカ National Training Laboratories

# まとめ

- 実践を振り返ることの意義  
「実践なき理論は空虚 理論なき実践は盲目」(クルト・レビン)
- 自分の体験から、よい実践を「伝える」。だから、実践の質は上がる
- 実践→研究→発表→実践への応用というサイクル
- 専門職の姿勢として、実践を研究する3つの意義
  - ① 自分が得た研究の成果を公表することで、実践のエビデンス(なぜ、そのように援助するのかを根拠付ける証拠)とする。
  - ② 現実の実践の中で生々しい現実や工夫を共有し、実践上のヒントについて情報交換し合う。
  - ③ 自らの実践家としての技量を高めるために場数を踏む。